

# 土砂災害対策

## 土砂災害とは？

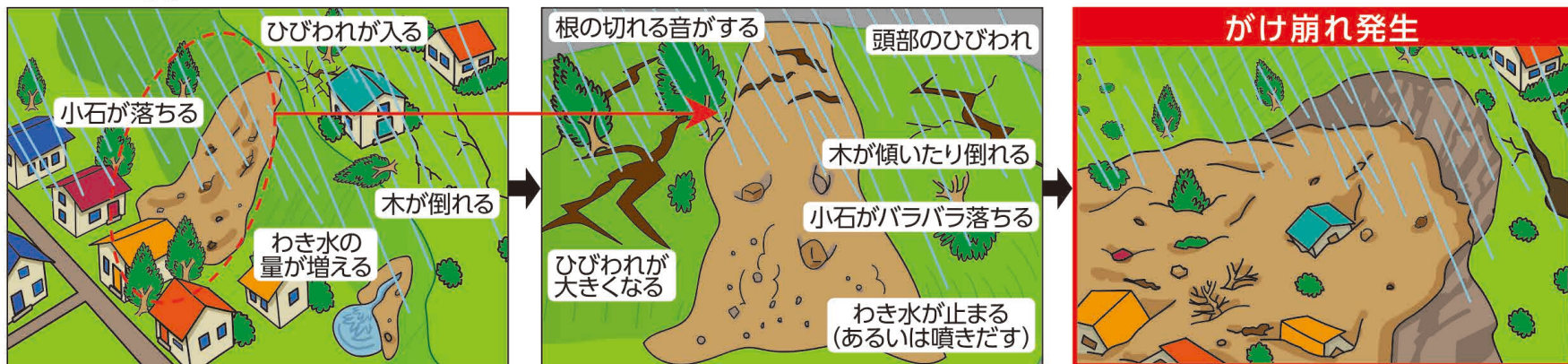
土砂災害は、台風、大雨、地震などにより発生しやすくなります。斜面の地表に近い部分が雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる「**がけ崩れ**」、山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される「**土石流**」、斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する「**地すべり**」があります。また、土砂災害が発生する前には、さまざまな前兆現象が起こることがあります。

## 土砂災害の前兆・種類

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起こるというものではありません。普段と違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

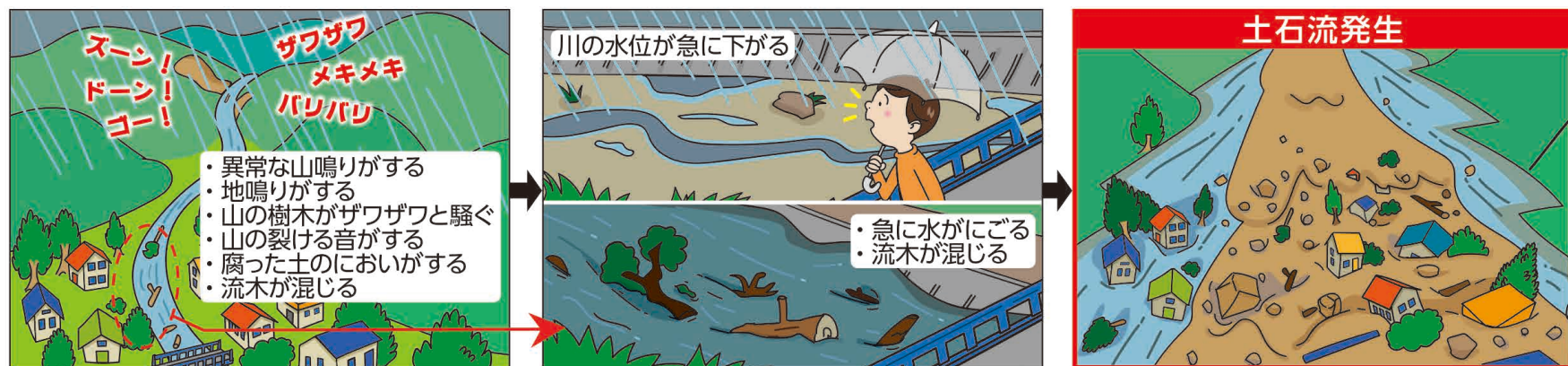
### がけ崩れ

地中に浸みこんだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起こるため、人家の近くで起こると逃げ遅れる人も多く、被害が発生する割合も高くなっています。



### 土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



### 地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害をおよぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



## 土砂災害の予防策

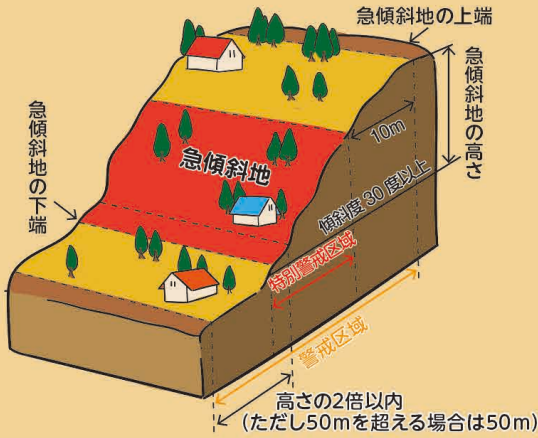
日ごろから避難する場所や道路などを確認しておきましょう。家の近くががけのある方は、がけの周辺を見回り、次のようなことを心がけましょう。



# 土砂災害危険箇所について

土砂災害防止法に基づき栃木県が計画的に基礎調査を実施して、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定および見直しを行っています。

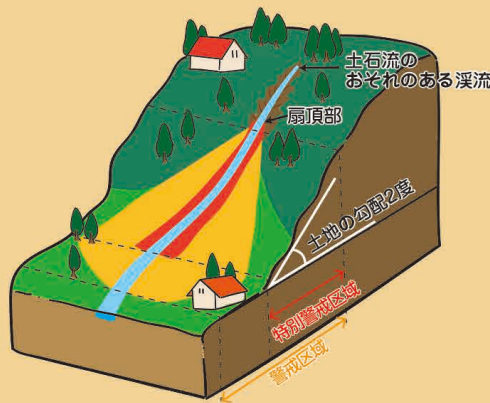
## がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）



### 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

- ・傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- ・急傾斜地の上端から水平距離が10m以内の区域
- ・急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍（50mを超える場合は50m）以内の区域

## 土石流



### 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

- ・土石流の発生のおそれがある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域

## 地すべり



### 土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

- ・地すべり区域
- ・地すべり区域下端から、地すべりの地塊の長さに相当する距離（250mを超える場合は250m）の範囲内の区域

## 土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域（土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動に対して住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある損壊を生じることなく耐えることのできる力の大きさを上回る区域）

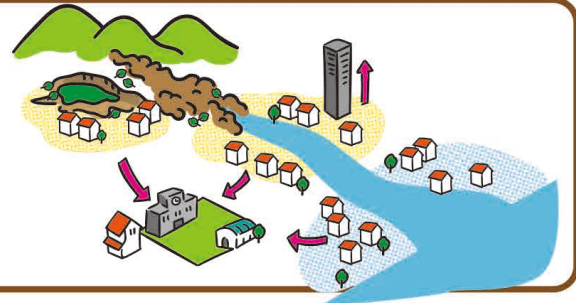
# 土砂災害から身を守るために

土砂災害は一瞬のうちに多くの人命や財産を奪う恐ろしい災害です。しかも、その発生を事前に予想することは非常に困難です。土砂災害から身を守るためには、日ごろからの備えが大切です。

### ●住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうか確認！

自分の家が土砂災害のおそれのある地区にあるかどうか、確認しましょう。また、避難の際にどこにどのように逃げるのか知っておくことが大事です。ハザードマップで避難場所や避難経路を確認しましょう。

※ただし、土砂災害危険箇所でなくても、土砂災害が発生する場合があります。付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意しましょう。



### ●雨が降り出したら「土砂災害警戒情報」に注意！

雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意しましょう。土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、市長が警戒レベル4避難指示などを発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、県と気象庁が共同で発表する防災情報で、災害の切迫度が高まっていることを示しています。



### ●警戒レベル4で危険な場所から全員避難！

土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当情報）が発表されたら、避難指示が発令されていなくても、土砂災害警戒判定メッシュ情報<sup>※</sup>などを参考にし、家族・親戚や地域内の方々に声を掛け合い、早めに近くの避難場所など、安全な場所に避難しましょう。特に、高齢者や障がいのある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難することが大事です。夜中に大雨が予想される場合には、暗くなる前に避難することがより安全です。また、土砂災害の多くは木造の1階で被災しています。どうしても避難先への避難が困難なときは、次善の策として、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難するか、それも難しい場合は家の中でより安全な場所（がけから離れた部屋や2階など）に避難しましょう。

※土砂災害警戒判定メッシュ情報…大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で1km四方の領域（メッシュ）ごとに5段階に色分けして示す情報。

